

## 全国における生態系ネットワークの取組状況

### ◇生態系ネットワークの取組の推進・支援

国土交通省・農林水産省・環境省の3省が連携して、生態系ネットワークの取組を推進しています。また、全国27市町（2019年1月11日現在）の首長からなる「水辺からはじまる生態系ネットワーク全国会議」が開催され、互いの情報が共有されています。2017年から生態系ネットワークをテーマとしたフォーラムが開催されており、今年度は2019年1月11日に「第3回水辺からはじまる生態系ネットワーク全国フォーラム」が行われました。

#### 第3回水辺からはじまる生態系ネットワーク全国フォーラムの概要

##### プログラム

###### ・基調講演

「河川を基軸とする生態系ネットワーク形成が果たす地域の活性化」

涌井 史郎 東京都市大学 特別教授

###### ・地域における取組紹介とパネルディスカッション

###### 【コーディネーター】

涌井 史郎 東京都市大学 特別教授

###### 【パネリスト】

太田 洋 千葉県いすみ市長

渡辺 泰 (一社)日本旅行業協会 関東支部 事務局長

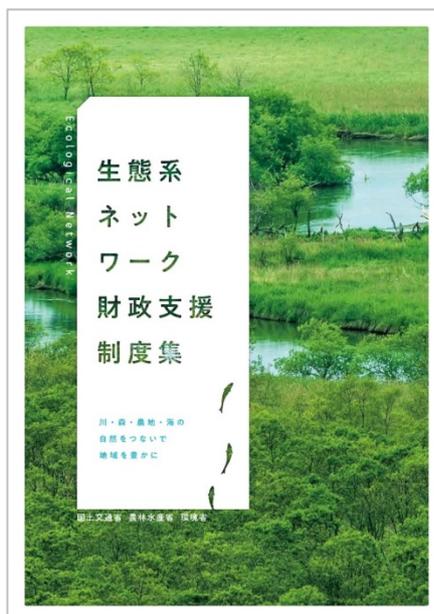
後藤 文昭 三井住友信託銀行 経営企画部 サステナビリティ推進室長

光成 政和 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長

##### 要旨

- ・2030年以降、人口減少が顕在化する中で、森里川海の連環をしっかりと考える必要がある。
- ・兵庫県豊岡市で取り組まれているように、特産品を生産しつつ、自然との共生を高付加価値につなげる視点が重要である。
- ・里山・里海の環境を守り、生態系を活かした地域づくりで元気な地域を将来に継承していくことが重要である。
- ・千葉県いすみ市では、環境と経済の両立を目指す協働のまちづくりを進めている。先導的プロジェクトとして、有機稲作を推進している。安全、安心な食料の提供、地産地消の促進、食育などの効果が期待される。海外からの教育研修などの受け入れも行っている。
- ・旅行業は、自然を観光資源としており、自然が失われてしまうと商品づくりができない。旅行業者がモニターツアー等で現場体験を行い、参加型・体験型のツアーを企画、販売できるようにしていきたい。
- ・金融機関にとって、今後、ESG（環境、社会、ガバナンス）への配慮が重要である。
- ・生態系ネットワーク形成の取組は、食育や郷土愛の醸成以外にも地域経済として貢献していることを実感している。
- ・本来河川環境が有している価値や機能を引き出しながら、多様な人がつながっていくことが今後の地域づくりの一つの原動力となる。

河川を基軸とした生態系ネットワークの形成を紹介したパンフレット、各地の生態系ネットワーク形成の取組を支援する国土交通省・農林水産省・環境省の制度を紹介したパンフレットが発行されています。



#### ◇協議会の設置状況

さまざまな主体が参加・協力して、全国各地で河川を基軸とした生態系ネットワークに関する協議会が設立されています。

各地方・流域の生態系ネットワーク推進協議会

地方・流域	協議会	設立年	指標種	構想・計画等
北海道	—	—	—	—
石狩川流域	タンチョウも住めるまちづくり推進協議会	2016年9月	タンチョウ	「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会の取組方針」(2017.3、2018.3)
東北地方	東北生態系ネットワーク推進協議会	2017年12月	大型水鳥類等	「東北生態系ネットワーク推進基本計画」(2018.11)
—	—	—	—	—
関東地方	関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会	2014年2月	コウノトリ、トキ	「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想」(2015.3) 「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」(2016.3)
江戸川・利根川・利根運河地域	コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会	2014年5月	コウノトリ、トキ	「コウノトリ等の多様な生物と共生する地域づくりのための行動計画」(2017.3)
利根川流域	渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会	2015年11月	コウノトリ、トキ	策定中
荒川流域	荒川流域エコネット地域づくり推進協議会	2017年11月	コウノトリ、トキ	策定中
北陸地方	—	—	—	—
—	—	—	—	—
中部地方	—	—	—	—
木曾川流域	木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会	2015年1月	イタセンパラ等	「木曾三川流域生態系ネットワーク全体構想」(2016.3)
近畿地方	—	—	—	—
九頭竜川流域他	福井県流域環境ネットワーク協議会	2015年10月	コウノトリ等	—
円山川流域	コウノトリ野生復帰推進連絡協議会	2003年7月	コウノトリ	「コウノトリ野生復帰推進計画」(2003.3) 「コウノトリ野生復帰推進計画(2期)」(2012.3)
中国地方	—	—	—	—
斐伊川流域	斐伊川水系における生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会	2015年4月	大型水鳥類	策定中
四国地方	四国圏域生態系ネットワーク推進協議会	2018年2月	コウノトリ・ツル類	策定中
吉野川流域	吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会	2017年10月	コウノトリ・ツル類	策定中
九州地方	—	—	—	—
遠賀川流域	遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会	2015年2月	サケ等	「遠賀川流域における生態系ネットワーク形成のための取組方針」(2018.8)

## ◇コウノトリとの共生を目指した地域計画の策定事例

### 島根県雲南市でのビジョンの策定

島根県雲南市では、2年連続でコウノトリが営巣しており、コウノトリが継続的に営巣できる自然豊かな環境づくりに取り組みながら、コウノトリによってもたらされる恵みを活かしたまちづくりを計画的に取り組むために、「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョン」の策定が進められています。現在、パブリックコメントが実施されています。



## ◇ツルとの共存のあり方の検討事例

### ツル渡来地でのマイカー通行規制の社会実験

鹿児島県出水市では、ツルと共生する地域社会づくりの検討が進められています。ツル渡来地の現状を来訪者に伝えるとともに、新たなツルとの共存のあり方を模索するために、環境省九州地方環境事務所が地域と協力しながら、2016年度からマイカー通行を規制し、バスへ乗り換えてもらう社会実験を行っています。

**出水分岐 鳥渡来イベント**

**ツル渡来地・出水の地域資源を活かしたまちづくりシンポジウム**

平成31年2月1日(日) 18:00～20:30  
 出水市役所 階多目的ホール 出水市駅前7-3-9 0996-63-2111  
 事前申し込み不要です。 開催会場へお越しください。  
 主催：(公財)日本生態系協会 共催：出水市、出水市教育委員会  
 後援：九州地方環境事務所、鹿児島県、(一社)出水市観光協会

地域の物語をどう活かせば、持続的に発展するまちになるのか。地元の中学生や北海道からの訪問者とともに出水が抱えるまちづくりについて考えます。

**北海道釧路村 North Cruise 北海道釧路市**

タンチョウの観光で知られる北海道釧路村。環境省による観鳥者制限をきっかけに、産業用タンチョウと共生している「鶴居タンチョウ」の確立を目指したまちづくりがすすんでいます。

鶴居の自然が環境保護に注力する中、環境省による観鳥者制限をきっかけに、産業用タンチョウと共生している「鶴居タンチョウ」の確立を目指したまちづくりがすすんでいます。

**出水分岐 鳥渡来地での理由**

世界的に重要なツル渡来地。出水で見るホトケトシリ、マガヅルは世界中でアジアにしか見えない希少な鳥です。渡来するの記録ではわずか275羽。そこから半世紀以上たった地域での個体数増加により、渡来地はツルにとって重要な場所と認められ、出水市に渡来します。

**地域の課題**

ツル渡来地にはたくさんの野鳥が集まるため、鳥インフルエンザ等の鳥類感染症が広がる恐れがあります。地元では養鶏が主要産業の一つであり、渡来鳥による消費など懸念した防疫対策が求められています。ツルを観望しようとする自動車が多いほどリスクが高まります。また、ツル渡来地では冬期も農家が営まれているため、農作業での農機具や人がいたり路上駐車が行われたりすると農作業や通行の妨げにもなります。

**解決に向けて**

動き始めた社会実験。地域が考え出した対策のため、市民と行政の協力のもと、平成28年度よりツル渡来地でのマイカー通行を規制し、バスに乗り換えてもらう社会実験が開始されました。この取り組みによりツル渡来地における人や自動車の往来を減らすとともに、訪れた人にとっての安全と安心が人の現状を伝え、人もツルに安心して暮らせる地域を築いています。

イベントへのご理解とご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

ツルフェスタシンポジウム開催申込  
 080-2030-0163  
 申し込み受付期間  
 ツルフェスタ開催中およびご観覧の日です

協賛  
 資和光学株式会社  
 マイルイノベーション株式会社  
 共催  
 まっま

ツルフェスタ開催中は、ツル渡来地でマイカー規制が行われます

【主催】九州地方環境事務所 【共催】出水市、出水市教育委員会

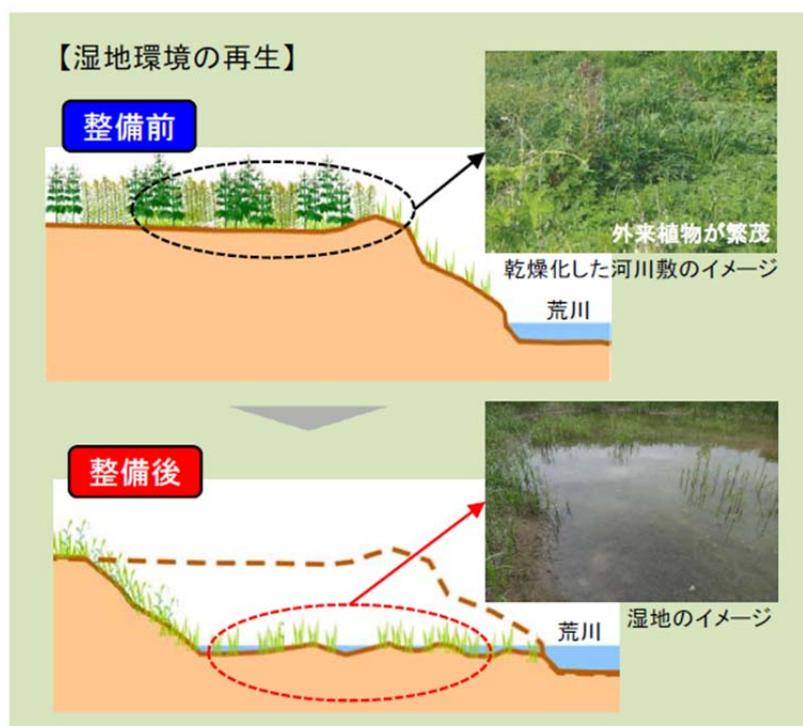
## ◇生息環境の保全・再生：生息環境づくりに関する取組事例

### 湿地の再生

円山川流域（兵庫県豊岡市）では、国土交通省と兵庫県が、治水対策と合わせて河川環境の整備を行い、良好な河川環境の再生を進めています。高水敷を浅く掘削することにより、コウノトリの採食地となる湿地を再生しています。また、豊岡市加陽地区で、国土交通省が河川敷の農地を買収して約15haの湿地「加陽湿地」を再生しました。河川と連続性のある湿地と河川と隔離された湿地をともに備えることで、生物多様性を向上させていて、コウノトリによる利用が確認されています。2017年には、湿地周辺に豊岡市が管理する加陽水辺公園が完成し、開園しました。



関東地方の荒川流域でも、コウノトリ等を指標として、河床の二極化により乾燥化した河川敷の盤下げを行い、湿地環境を再生することが計画されています。



## ◇地域振興：地域・人づくりに関する取組事例

### 農業

兵庫県がコウノトリと共生できる農業の技術開発を行い、2005年に体系化した「コウノトリ育む農法」でつくられた米は、「コウノトリ育むお米」として販売されています。認証制度に基づくブランド農産物として高価格で流通しています。また、近年では海外にも販路を広げています。

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会に参画している栃木県小山市や千葉県いすみ市でも、米のブランド化が進められ、学校給食での使用が行われています。いすみ市は、2017年から市内のすべての小中学校（13校）で学校給食米の全量に有機米の「いすみっこ」を採用しています。



<http://isumikko.com/>

千葉県野田市では、市の南東部にある江川地区の里山環境を保全、再生するために、2009年に「江川地区市民農園」を開園しています。年度ごとに参加者を募り、参加者は田植えや草取り、稲刈りといった農作業などを体験して、収穫された米を受け取ります。野田市内だけでなく、近隣の流山市、柏市、千葉県外の埼玉県、東京都からも応募があり、2009年の開設から平均して約400名／年が参加しています。江川地区には、コウノトリの飼育・観察施設である「こうのとりの里」も整備されています。



## 観光

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会や斐伊川水系における生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会では、取組地域へ観光客を呼び込むことを目標に、観光事業者や観光協会と連携してモニターツアー等を実施しています。



## 普及広報

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会では、シンポジウムの開催や地域の学習施設での企画展示などにより、生態系ネットワークの取組の普及広報を行っています。斐伊川水系における生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会では、広報用のリーフレットを作成し、観光案内所等で掲示しています。

